

平成 30 年度

事業者番号	0014	事業所番号	001401
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあっては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	新日本無線株式会社 川越製作所		
事業所所在地	市区町村	ふじみ野市	
	字・地番	福岡二丁目1番1号	
産業分類名(中分類)	電子部品・デバイス・電子回路製造業		
分類番号(中分類)	28		
事業活動の概要	事業内容 従業員数等	電子デバイス製品およびマイクロ波製品の製造、販売 従業員人数 1,345名(2018年3月現在)	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第2計画期間の削減目標

計画期間		27	年度	～	31	年度
削減目標	エネルギー起源CO ₂ (必須)	基準排出量に対し、削減計画期間の平均削減率13%とする。				
	その他ガス	電子デバイス製品関連の製造工程で使用される温室効果ガス(PFC)の購入量を監視し、適切な使用を心掛けています。排出量の抑制のための施策は継続的に検討してまいります。				
エネルギー起源CO ₂ の削減目標の概要	排出可能上限量 (計画期間合計)	146,634	t-CO ₂	事業所区分 第2区分		
	削減目標量 (計画期間合計)	21,911	t-CO ₂			

(2) 第3計画期間の削減目標

計画期間			年度	～		年度
削減目標	エネルギー起源CO ₂ (必須)					
	その他ガス					

3-1 事業所の温室効果ガス排出量

(1)原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計画期間				
	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	31年度 (2019)
	14,726	14,854	14,782		

(2)計画期間の温室効果ガス排出量の推移

 CO₂換算(t-CO₂)

		計画期間				
		27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	31年度 (2019)
エネルギー起源CO ₂		28,928	29,138	29,002		
その他 ガス	非エネルギー起源CO ₂					
	メタン					
	一酸化二窒素					
	ハイドロフルオロカーボン					
	パーフルオロカーボン	16,815	10,544	9,423		
	六ふっ化いおう					
	三ふっ化窒素					
温室効果ガスの合計		45,743	39,682	38,425		

 (3)計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況(エネルギー起源CO₂)

 CO₂換算(t-CO₂/指標)

				計画期間				
				27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	31年度 (2019)
エネルギー起源CO ₂ 排出量原単位				0.6837	0.6803	0.6579		
活動規模の指標		生産量						
	○	売上高	百万円/年	42,312	42,833	44,082		

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	33,709	t-CO ₂ /年
基準排出量検証	基準年度検証実施済	

(2) 基準排出量の変更

変更年度		変更量	
変更年度		変更量	
変更年度		変更量	

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

(4) 削減計画期間

27	年度から	31	年度まで
----	------	----	------

(5) 年度ごとの状況

		27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	31年度 (2019)	削減期間 合計	
基準 排 出 量 等	基準排出量(A)	33,709	33,709	33,709	33,709	33,709	168,545	
	トップレベル認定							
	目標削減率(B)	13.0%	13.0%	13.0%	13.0%	13.0%		
	排出上限量 (C = ΣA-D)							146,634
	排出削減目標量 (D = Σ(A×B))							21,911
実績	エネルギー起源 CO ₂ 排出量(E)	28,928	29,138	29,002			87,068	
	排出削減量 (F = A - E)	4,781	4,571	4,707			14,059	
特例	高効率設備の 算定量(※)							

※ 算定を希望する場合のみ記入する。別途、算定資料(任意様式)を添付すること。

 (6) エネルギー起源CO₂排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

2014年度末に構内一部エリアにて新工程を立ち上げたため、2015年度は前年に比較して生産・空調用電力および空調用都市ガス消費量が増加し、排出量も増加した。

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対策の区分			対策概要	実施年度	推計削減量 (t) (一年度当たり)
	区分番号	区分名称				
		大区分	中区分			
1	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	構内照明設備、誘導灯のLED化	H27年度	33
2	320100	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_燃料の燃焼の合理化に関する措置	201棟ボイラー更新によるCO2排出量削減	H27年度	218
3	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	老朽化エアコン更新による電力削減	H27年度	5
4	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	老朽化冷凍機の高効率冷凍機への更新	H28年度	67
5	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	構内照明設備、誘導灯のLED化	H28年度	10
6	350600	受変電設備、配電設備	35_抵抗等による電気の損失の防止に関する措置	変圧器更新に伴う損失電力低減	H28年度	1
7	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	老朽化エアコン更新による電力削減	H28年度	10
8	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	老朽化冷凍機の高効率冷凍機への更新	H29年度	30
9	360700	ポンプ、ファン、ブLOWER、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	生産冷却水設備インバータ化による電力削減	H29年度	20
10	360700	ポンプ、ファン、ブLOWER、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	排気ファン運転台数の見直し	H29年度	15
11	330200	空気調和設備・換気設備	33_加熱及び冷却並びに伝熱の合理化に関する措置	老朽化エアコン更新による電力削減	H29年度	10
12	490200	その他	49_その他の削減対策	太陽光発電導入による電力削減	H30年度	10
13	329900	ボイラー、工業炉、蒸気系統、	32_ボイラー・工業炉・蒸気系統・熱交換器等に係るその他の削減対策	空調温熱源へのヒートポンプ機器利用	H30年度	100
14						
15						

※ 入力欄が足りない場合は、シートの様式を変更せずに、同様式の別ファイルを作成して提出してください。

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

自由記述欄

A large yellow rectangular area intended for free text input, occupying most of the page's content space.